



証券コード 3160

2020年5月期 第2四半期
(2019年6月1日～2019年11月30日)
決算説明資料

2019年12月23日

1. 2020年5月期 第2四半期 決算概要

2. 2020年5月期 業績見通し

3. 補足資料

1. 2020年5月期 第2四半期 決算概要

連結損益計算書

(単位：百万円)	19/5期	20/5期	前年同期比		業績予想	
	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率	2Q計画	計画比
売上高	30,771	31,592	+820	+2.7%	32,100	△1.6%
売上総利益	5,719	5,886	+166	+2.9%	5,974	△1.5%
売上高比	18.6%	18.6%	+0.0%		18.6%	
販売費及び一般管理費	5,480	5,765	+285	+5.2%	5,847	△1.4%
売上高比	17.8%	18.2%	+0.4%		18.2%	
営業利益	239	121	△ 118	△49.4%	127	△4.5%
売上高比	0.8%	0.4%	△0.4%		0.4%	
経常利益	274	148	△ 125	△45.7%	150	△0.7%
売上高比	0.9%	0.5%	△0.4%		0.5%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	172	66	△ 105	△61.2%	80	△16.3%
売上高比	0.6%	0.2%	△0.3%		0.2%	

業績概要

増収減益、計画に対して売上・利益ともに若干マイナス

■ 売上高

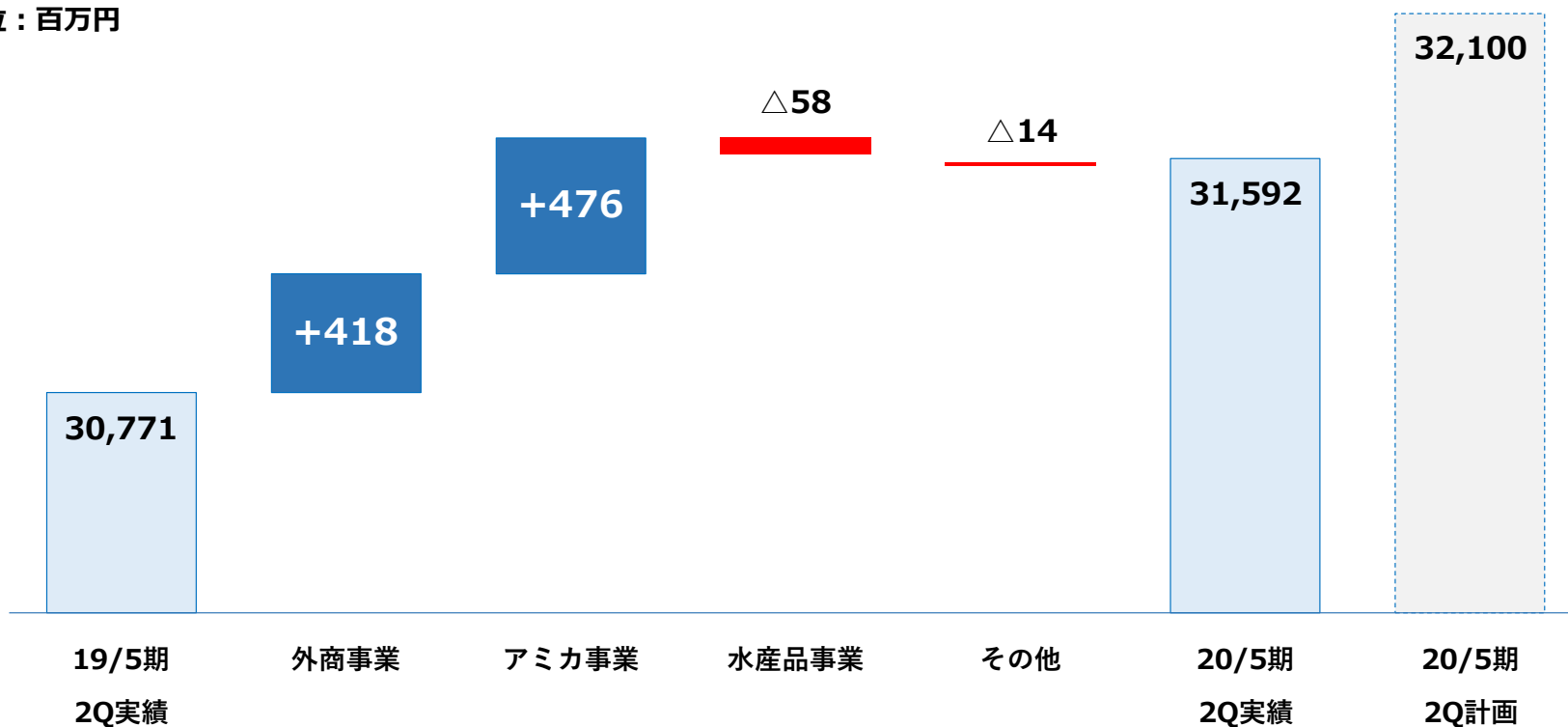
- ・ 外商事業、アミカ事業の売上が伸長し、連結売上高は前年同期比 2.7%増
- ・ 外商事業において、外食チェーンなど既存得意先の売上伸長が計画を下回ったことから計画比は 1.6%減

■ 営業利益

- ・ 販管費率が上昇していることから、営業利益は前年同期を下回った
- ・ 売上高が計画を下回ったことに伴い、売上総利益が減少したことなどから計画に対して営業利益は若干下回った

売上高 - 増減内訳 -

単位：百万円



※ 「その他」の区分は、報告セグメントには含まれない太陽光発電事業及びセグメント間の内部売上高を含んでいます。

外商事業

前期に獲得した新規得意先売上が増収に寄与

アミカ事業

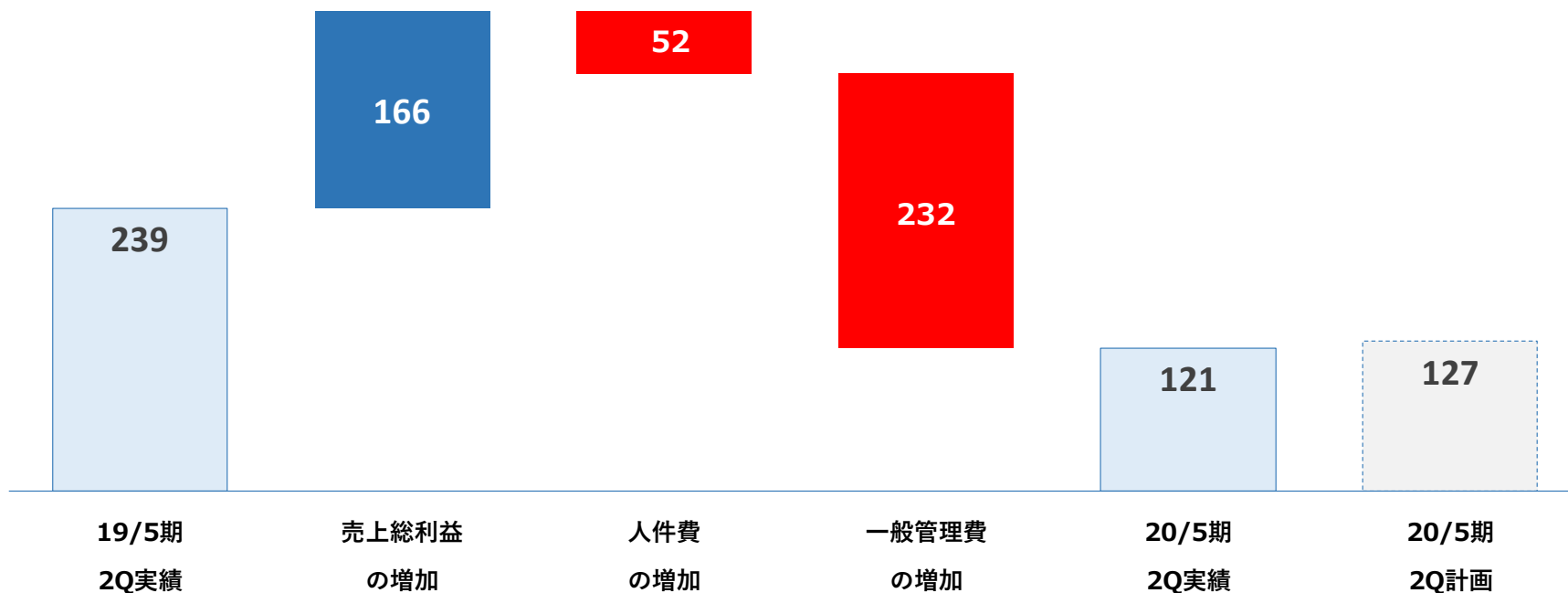
既存店の好調推移に加え、前期開業店舗も増収に寄与

水産品事業

貝類の販売や輸出版売が前年同期より減少

営業利益 - 増減内訳 -

単位：百万円



一般管理費の増加要因

- 運搬費** +175百万円 新規得意先の獲得など売上増加に伴う増加、アミカ店舗数増加に伴う本部配送費の増加、物流コストの上昇による増加
- 減価償却費** +17百万円 前期に実施したアミカ店舗開設や冷凍設備入替等の設備投資に伴う増加

セグメント別の概要

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	19/5期	20/5期	前年同期比		19/5期	20/5期	前年同期比	
	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率
外商事業	20,312	20,730	+418	+2.1%	92	△ 139	△ 231	-
アミカ事業	9,456	9,932	+476	+5.0%	612	725	+112	+18.4%
水産品事業	1,053	994	△ 58	△5.6%	16	13	△ 2	△16.4%
その他 ※	8	8	△0	△3.6%	2	2	+0	+16.3%
調整額 ※	△ 59	△ 74	△ 14	-	△ 484	△ 481	+2	-
連結	30,771	31,592	+820	+2.7%	239	121	△ 118	△49.4%

※ 「その他」の区分は報告セグメントには含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業を含んでいます。

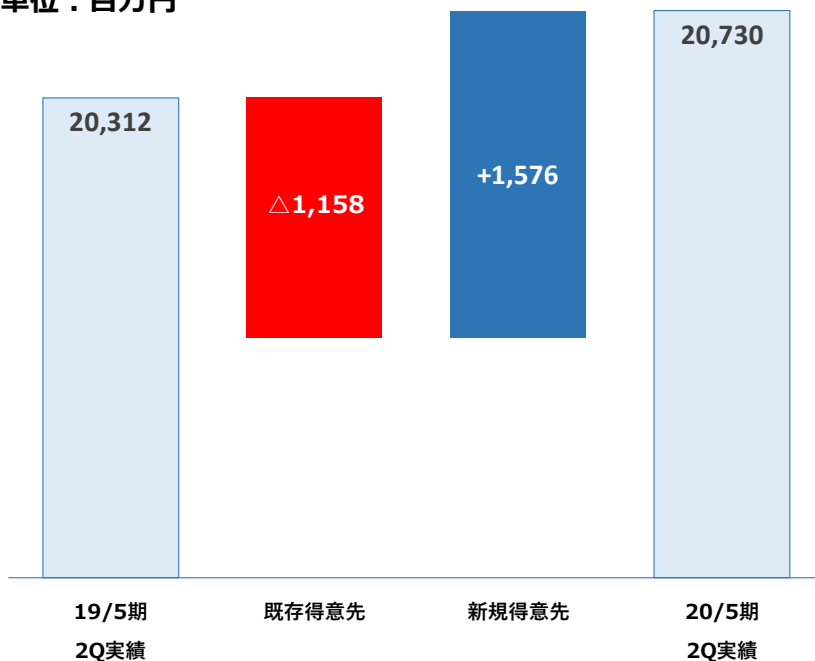
※ 売上高には、セグメント間の内部売上高を含めています。

※ 営業利益の「調整額」は、当社の本社経費等です。

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	19/5期	20/5期	前年同期比		19/5期	20/5期	前年同期比	
	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率
外資事業	20,312	20,730	+418	+2.1%	92	△ 139	△ 231	-

売上高増減内訳

単位：百万円



売上高の増減要因

- ・ 外食チェーンをはじめとする既存得意先の売上が減少
- ・ 前期および当期に獲得した新規得意先との取引拡大が増収に貢献

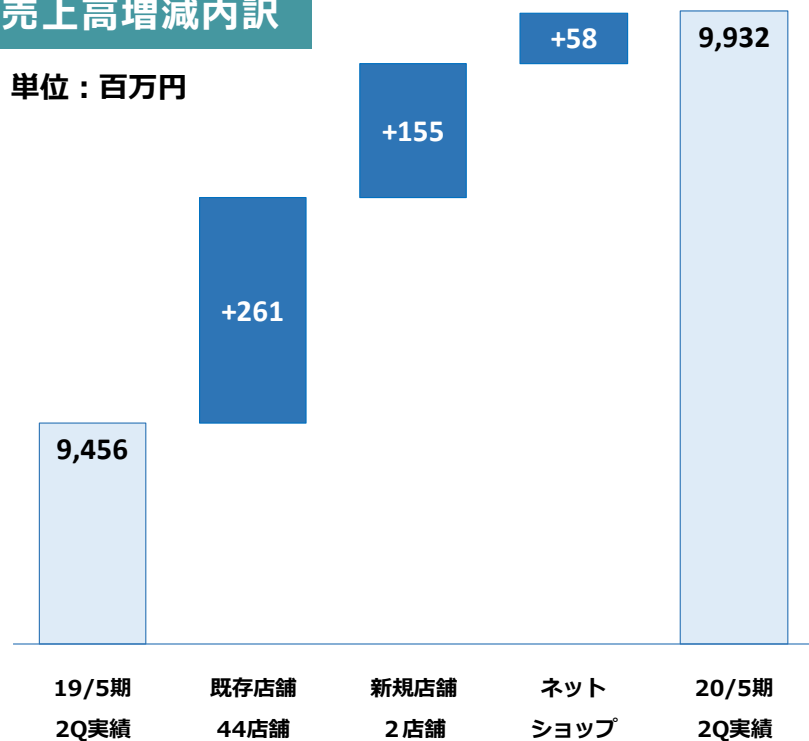
営業利益の増減要因

- ・ 人件費や運搬費等の販管費率が上昇していることから減益

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	19/5期	20/5期	前年同期比		19/5期	20/5期	前年同期比	
	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率
アメリカ事業	9,456	9,932	+476	+5.0%	612	725	+112	+18.4%

売上高増減内訳

単位：百万円



売上高の増減要因

- 消費増税や天候不順の影響があったものの既存店売上は前年同期比 102.9% と好調に推移
- 前期に開業した新規店舗も増収に寄与
- ネットショップも好調を継続

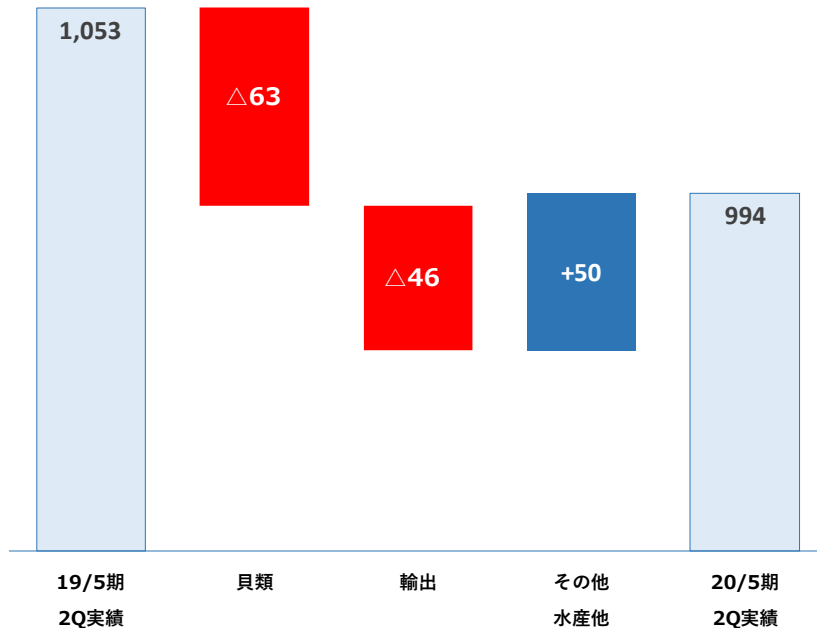
営業利益の増減要因

- 売上増加に伴い売上総利益が増加したことにより営業利益が増加

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	19/5期	20/5期	前年同期比		19/5期	20/5期	前年同期比	
	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率
水産品事業	1,053	994	△ 58	△5.6%	16	13	△ 2	△16.4%

売上高増減内訳

単位：百万円



売上高の増減要因

- 貝類や輸出販売は前年同期を下回る
- タコやイカ等の貝類以外の水産品は増加

営業利益の増減要因

- 人件費や運搬費等が増加したことから営業利益は若干の減益

連結貸借対照表

(単位：百万円)	19/5期	20/5期2Q	
	5月末	11月末	増減額
流動資産	10,969	11,631	+662
固定資産	7,824	7,879	+54
総資産	18,793	19,511	+717
流動負債	11,292	10,983	△ 309
固定負債	2,801	3,758	+957
負債合計	14,093	14,741	+648
純資産	4,700	4,769	+69
1株当たり 純資産 (円)	354.71	359.96	+5.25
自己資本比率	25.0%	24.4%	△0.6%

主な増減要因

■ 流動資産

現金及び預金の増加	+ 259
受取手形及び売掛金の増加	+ 169
商品の増加	+ 112

■ 固定資産

建物及び構築物の減少	△73
投資有価証券の増加	+ 205

■ 流動負債

支払手形及び買掛金の増加	+ 426
短期借入金の減少	△851

■ 固定負債

長期借入金の増加	+ 826
----------	-------

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	20/5期2Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	557
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 283
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 15
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0
現金及び現金同等物の増減額	259
現金及び現金同等物の期首残高	379
現金及び現金同等物の四半期末残高	638

主な増減要因

■ 営業キャッシュ・フロー

売上債権の増加	△169
減価償却費の計上	+256
仕入債務の増加	+426

■ 投資キャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出	△135
投資有価証券の取得による支出	△125

■ 財務キャッシュ・フロー

長期借入による収入	+1,500
短期借入金の純減額	△851
長期借入金の返済による支出	△581

2. 2020年5月期 業績見通し

通期業績予想

(単位：百万円)	19/5期		20/5期	
	実績	計画	前期比	
			増減額	増減率
売上高	62,911	64,200	+1,288	+2.0%
営業利益	649	520	△ 129	△ 20.0%
売上高比	1.0%	0.8%	△ 0.2%	
経常利益	704	570	△ 134	△ 19.1%
売上高比	1.1%	0.9%	△ 0.2%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	415	325	△ 90	△ 21.8%
売上高比	0.7%	0.5%	△ 0.2%	

※ 通期の業績予想について、2019年12月19日に業績予想の修正を発表しております。

売上は増加するものの、人件費や配送費などの販管費率が上昇することを見込み、増収減益を計画

外商事業

- ✓ 新規開拓の強化、既存得意先との取引深耕
- ✓ 千葉支店開設（2018年12月）、関東地区の販売強化、物流の効率化
- ✓ 物流費をはじめとする経費抑制

アミカ事業

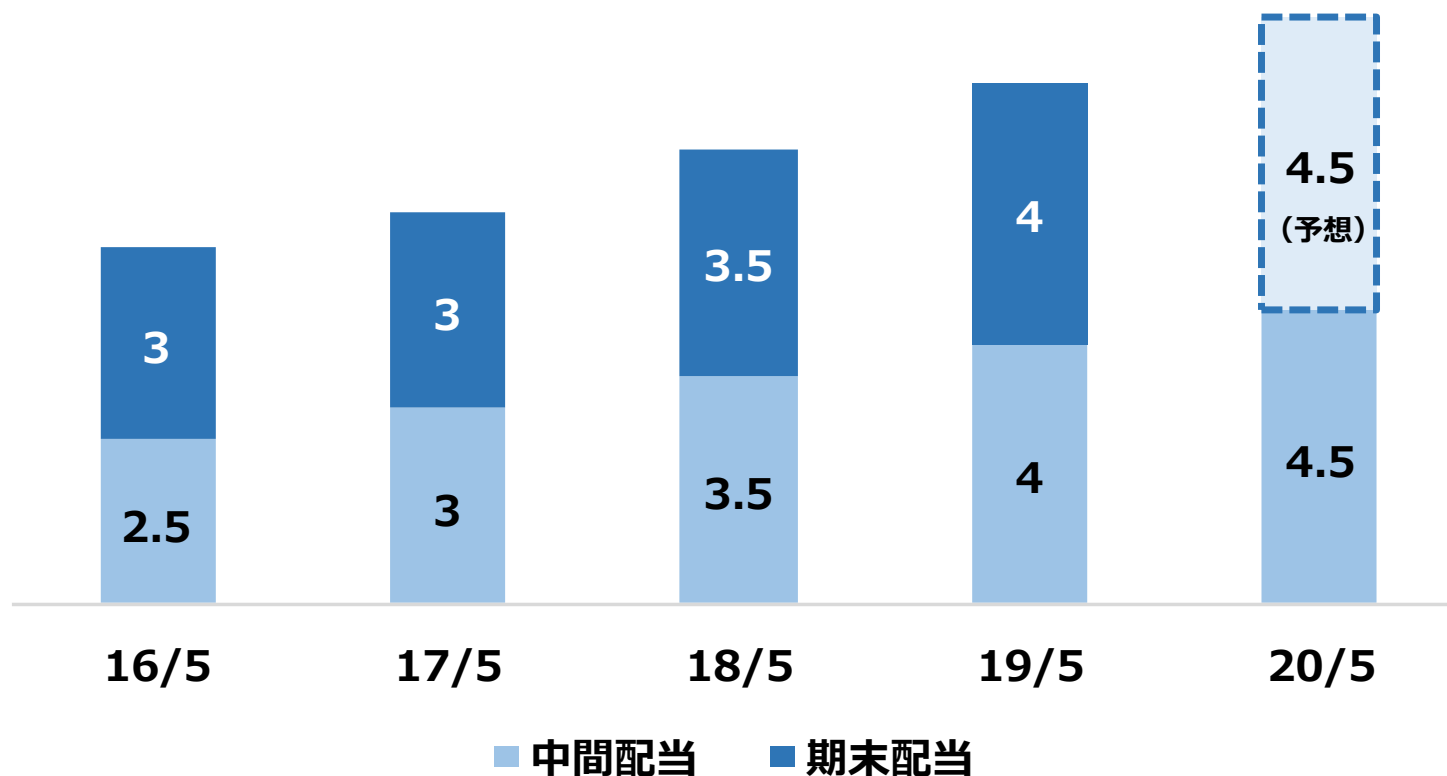
- ✓ 既存店舗の活性化
(地域別の品揃え強化、SNS活用など販促活動の強化、店外営業強化等)
- ✓ 業務の効率化による人件費等の経費抑制

水産品事業

- ✓ 国内外の新規開拓、輸出販売の取組み強化
- ✓ 事業間の連携強化による販売網の拡大

1株当たり配当金（円）

※ 2017年7月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っています。
下記は16/5の期首に当該株式分割が行われたと仮定し算出しています。



中間配当金4.5円、年間配当金9.0円、5期連続増配を計画

3. 補足資料

会社名	株式会社大光 (東京証券取引所 市場第一部：3160)
代表者	代表取締役社長 金森 武
本社	岐阜県大垣市浅草二丁目66番地
創業	1948年(昭和23年) 6月
設立	1950年(昭和25年) 12月
事業内容	業務用食品卸売および小売業
事業所・店舗	外商事業：10事業所 アミカ事業：46店舗
子会社	株式会社マリンドリカ
資本金	10億76百万円 ※
発行済株式総数	13,450,800株 ※
株主数	14,111名 ※

- (注) 1. ※ はすべて2019年11月末日現在の内容であります。
2. 発行済株式総数のうち、自己株式が200,012株あります。

外商事業

〔業務用食品等
卸売事業〕

外食・給食・惣菜など様々な「食」に関連する企業に
業務用食品等を販売

対象顧客：大手外食チェーン、中規模外食業者を対象

アミカ事業

〔業務用食品等
小売事業〕

業務用食品スーパー「アミカ」及び、業務用食品を販売
するネットショップを展開

対象顧客：小規模外食業者、一般消費者を対象

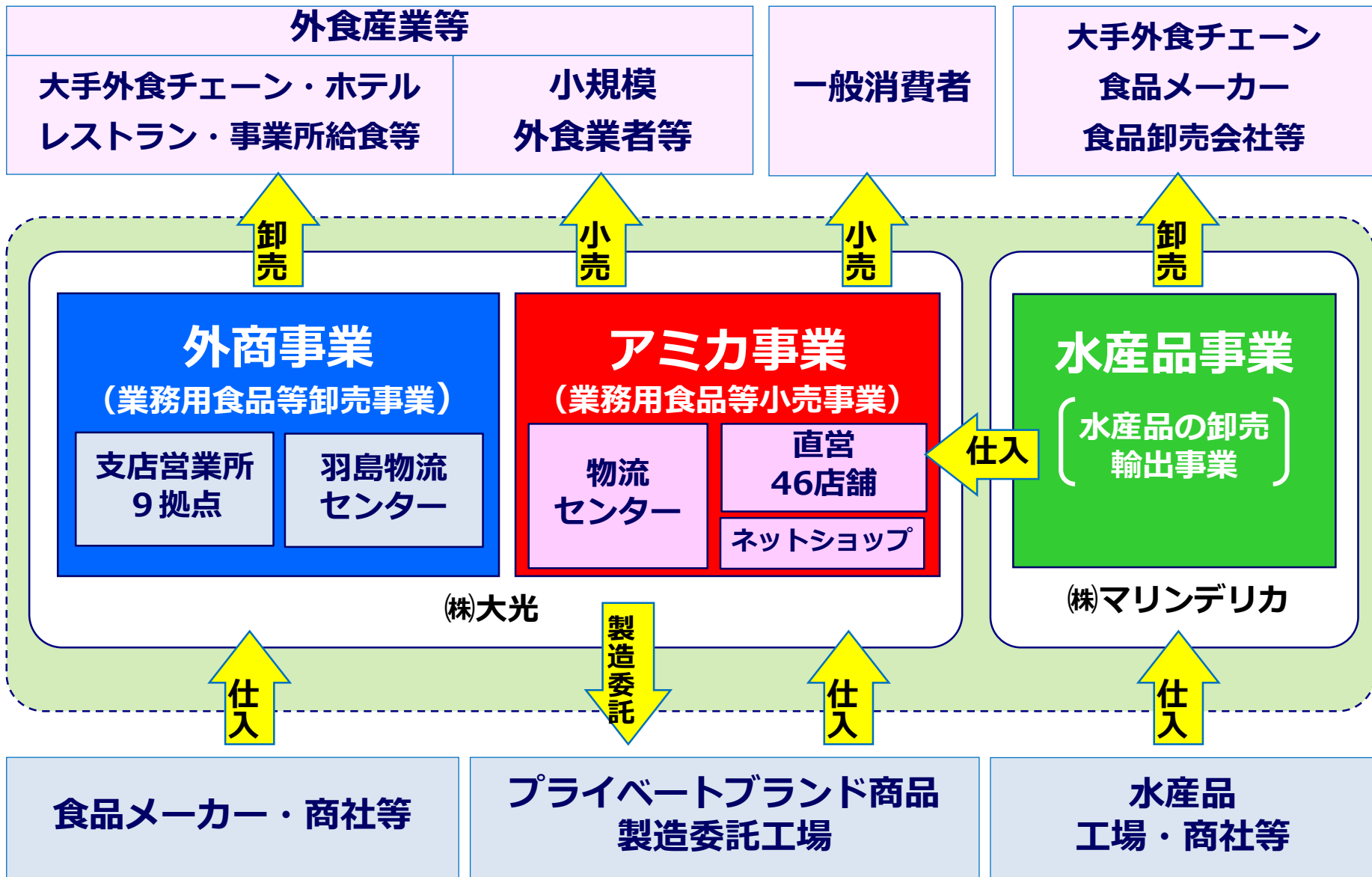
水産品事業

〔水産品の卸売
輸出事業〕

貝類を中心とした水産品の国内販売、輸出販売

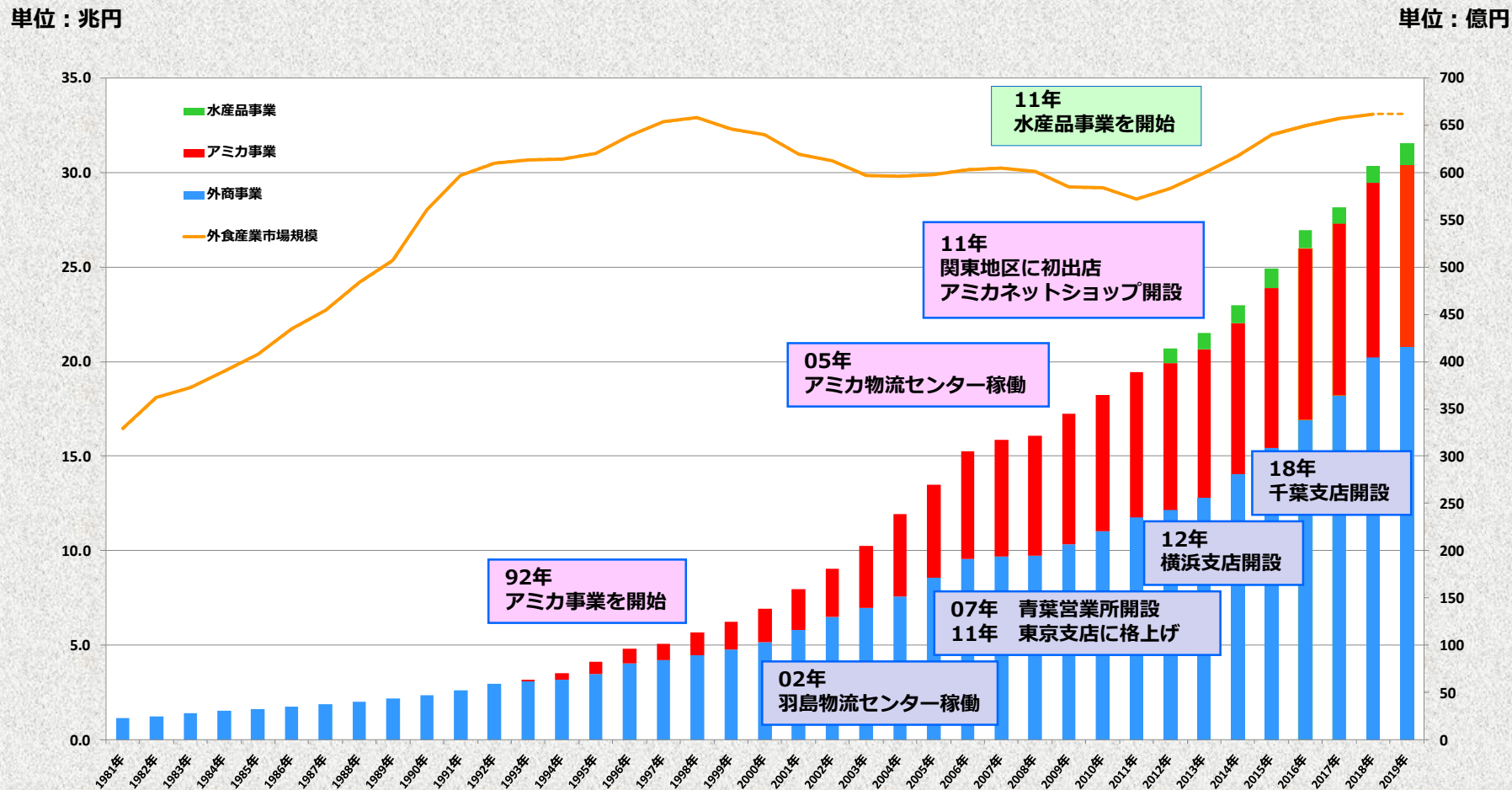
対象顧客：全国中央市場、水産会社、食品問屋、
大手外食チェーンのレストランなど

事業構造



事業の特長 - 3つの事業で市場を開拓 -

外食産業市場規模が横ばいの中、成長を継続



出所：外食産業総合調査研究センターの推計より当社が作成

本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。

掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものであります。

通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、変更する可能性、及び本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じるリスクを含んでおります。

当資料記載の業績見通しのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

<お問い合わせ先>

株式会社大光 経営企画室

電話：0584-89-7823（直） FAX：0584-89-7333

E-mail：ir@oomitsu.com

http://www.oomitsu.com/

証券コード **3160**